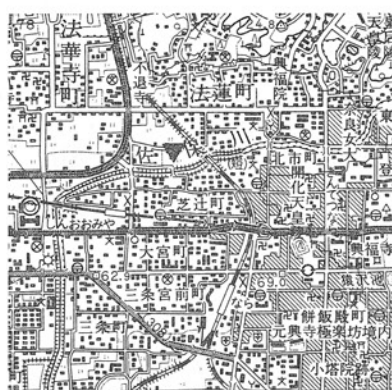




(奈良)

調査地は平城京左京二条四坊十一坪の東半部北寄りにあたり、今回、小学校建設に先立って約二五〇〇㎡を発掘した。検出した主な遺構は、条坊遺構では二条条間路の一部とその南側溝、十一坪と十四坪との坪境小路、十一坪内の遺構では掘立柱建物三五棟、堀一三条、井戸九基、溝三条などである。これらの遺構には六時期の変遷があり、このうち建物の配置状況がもっとも

## 奈良・平城京左京二条四坊十一坪

1 所在地 奈良市法蓮町

2 調査期間 一九八九年(平一)七月～十一月

3 発掘機関 奈良市教育委員会

4 調査担当者 西崎卓哉・森下浩行

5 遺跡の種類 都城跡

6 遺跡の年代 奈良時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

よくわかる第二期には、坪の東半二分の一町を利用した建物配置であることが知られた。木簡は第六期に属する二つの井戸から出土した。井戸SE五五は掘形の底に円形曲物を据えた後、内法一辺九二cmの方形縦板組の井戸枠を組む。井戸SE五七は内法一辺一一五cmの方形縦板組の井戸枠を組む井戸である。いずれも枠内から平城宮土器編年第Ⅵ期の土器が出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) [字字カ]  
・ [字字カ] 字字字字

・ [字字カ]  
・ [字字カ] 字字

(136) × (11) × 2 081

(2) [字字カ]  
・ [字字カ] 勲一等

・ [字字カ]  
・ [字字カ]

(99) × 95 × 3 081

(1)は井戸SE五七の枠内から出土。上下端は欠損、左右両側面も削り取られている。この井戸からは他に削屑が二〇点出土したが、いずれも小片であり釈読できない。(2)は井戸SE五五の掘形から出土。上下端は欠損、縦二片に割れている。

9 関係文献

奈良市教育委員会「平城京左京二条四坊十一坪の調査」(『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成元年度』一九九〇年)(西崎卓哉)